

## 《シリーズ企画》

# 伝統芸能に魅せられて

物語 6

市野々神楽同好会  
（関市萩荘）



市野々神楽同好会の誕生は昭和51年、地域の若者の集まり「市野々読書会」が当時関市で開催されたヤングフェスティバルに出場する際に「自分たちが大人から習ったものをやろう」と、鶏舞を演じたことがきっかけでした。鶏舞に熱が入った有志15人が昭和54年に同好会を設立。以降、鶏舞のみを演じてきました。師匠の佐藤慶男さんが務める太鼓の響き、その声に奮い立たされて活動を続け、平泉町の藤原まつりでは30年以上に渡って平泉駅前での観光客の出迎えを担っています。現在は男性3人女性13人が中心となって地域の行事で主に舞い、市野々地区の子ども達を対象に月1回「じきょうっ子広場」を開いて指導にあたっています。代表の千葉義徳さんは「師匠から受け継いだ基本を崩すことなく、少しでもお客さんに喜んでもらえるように日々、技術に磨きをかけていきたい。地域活性化のためにも良い伝統をなくさないでいく」と決意を語ります。



演目：鶏舞 あまてらすおおみかみ すさのおのみこと  
鶏舞の由来は、神代の昔。天照大神の弟、素戔鳴尊の暴挙を戒めるため、天の岩屋にこもり岩戸を固く閉じたため、世は暗闇となりました。八百万の神々が詮議するが、その効果はありません。機知に富んだ天鈿女尊あまのうずめのみことが岩戸の前で笛、太鼓に合わせて賑やかに舞い始めます。あまりの面白さに大神が岩戸を細めに開き、覗き見たところを手力男尊たぢからのおのみことがすかさず岩戸を開き、その岩戸を海中まで投げ込んでしまいます。

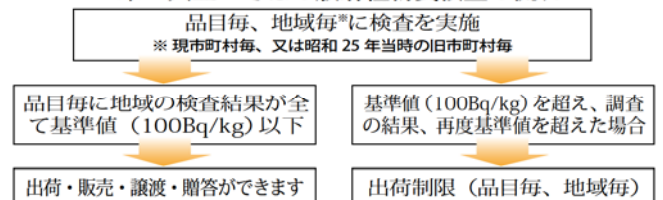
神々は大神を迎えると再び世が明るくなり、夜明けを待ち望んでいた鶏たちが狂喜乱舞し、この姿を舞にしたのが鶏舞です。また全ての神楽舞の基本がこの鶏舞です。

## 一関市、平泉町の米・大豆・そばの生産者の皆様へ

県では、平成 25 年産の米・大豆・そばの放射性物質検査を品目毎、地域毎<sup>※</sup>に実施します。

※ 現市町村毎、又は昭和 25 年当時の旧市町村毎に検査を実施。  
地域の検査が終了するまで、出荷・販売・譲渡・贈答を自粛するようお願いいたします。

## 米・大豆・そばの放射性物質検査の流れ



## 検査結果判明の時期（予定）

米：9月19日頃（JAいわて南管内）

大豆：11月以降

そば：10月以降

検査結果は、岩手県のホームページや新聞、市町、JAを通じて、速やかに公表します。